【資料紹介】

和光市内富士塚の石造物について

大内一雄　田中由美

1．はじめに

富士塚は富士山を信仰する富士講によって築造され、登ることにより富士登拝と同等の御利益が得られるとされてきた。

和光市内には、下新倉氷川八幡神社富士塚、白子熊野神社富士塚、浅久保浅間神社富士塚の三基の富士塚が存在する。和光市教育委員会では平成 29 年 7 月より調査を実施し、富士塚に現存する石造物についても明らかになった。和光市文化財調査報告書第 1 集「和光市の富士塚」では詳細に報告できなかった大変興味深い石造物の詳細について記す。

石造物の銘文のうち旧字体は常用漢字に書き換えた部分もある。

2．富士塚築造に関する石造物

富士塚を築造した際の記念碑を紹介する。これらの碑文には築造の時期や経緯、協力者の名が記されている。

（1）下新倉氷川八幡神社富士塚「奉納歌碑・築山碑 (冨嶽誌)」(報告書番号 1-8) 【第 1 図】

年代：明治四辛未年 (1871) 六月

法量：高さ 102㎝　幅 85㎝　厚さ 10㎝

形状：板状　石質：安山岩

正面には祥光山金泉寺第十八代住職台岡撰の御伝 (身禄入定の歌)「御鏡の教へのことくこの心すへの代までも祈るうれしさ」が刻まれる。

裏面上段には冨嶽誌が刻まれ、嘉永二年 (1849) に旧社を再興し、明治三年 (1870) には塚を築造し、翌年には由緒を表し豊穀安民を祈願したことが記される。

裏面下段には再山築立連としてセハ人・発願主・神主のほか交名が刻まれる。

（2）白子熊野神社富士塚「築山碑」(報告書番号 2-7) 【第 2 ・ 3 図】

年代：明治三歳在庚午 (1870) 夏

法量：高さ 130㎝　幅 175㎝　厚さ 20㎝

形状：板状　石質：安山岩

上部を尖がらせ、富士山を模る大型の石造物である。

正面には丸瀧講の講紋が刻まれる。

裏面上段には明治三年 (1870) に「白子新富士」が築造されたこと、下段には当山築山連として世話人・脇先達・願主先達のほか交名が記される。

3．富士塚山頂の石造物

富士塚の山頂に建立された主尊を祀る石碑や石祠を紹介する。

（1）下新倉氷川八幡神社富士塚「神名碑 (浅間太神)」(報告書番号 1-10) 【第 4 ・ 5 図】

年代：嘉永元申年 (1848) 四月吉

法量：高さ 155㎝　幅 41㎝　厚さ 16㎝

形状：板状　石質：片岩

富士塚の山頂に造立され、正面に神名「浅間太神 (アサマノオオカミ)」が刻まれる。アサマノオオカミとは富士山の山神で本来「浅間大神」と記されるが、本碑では「浅間太神」と刻まれている。

台石にはセワ人・交名・石工が刻まれる。

富嶽誌の碑文からも、慶長年間に勧進した富士浅間神社を嘉永年間に再興し、明治三年 (1870) に富士塚を築造したものと推測される。

（2）白子熊野神社富士塚「石祠」(報告書番号 2-33) 【第 6 図】

年代：明治三庚午歳 (1870) 六月吉日

法量：高さ 108㎝　幅 59㎝　厚さ 56㎝
形状：石祠 (入母屋造り)　石質：安山岩
軒に丸瀧講の講紋が施される。石祠の扉はなく、「冨士浅間大神祈祷神璽」が祀られる。
裏面には年号・願主が刻まれる。

（３）浅久保浅間神社富士塚「石祠」(報告書番号 3-47)【第７・８図】

年代：神武天皇紀元二千五百三十三年 (明治六年（1873）) 四月十五日
法量：高さ 70㎝　幅 34㎝　厚さ 30㎝
形状：石祠 (入母屋造り)　石質：安山岩
注連縄が張られている。
裏面には再興願主、台石正面には氏子中、右側面・台石右左側面には交名が刻まれる。

4. 特徴のある石造物

和光市内富士塚には多くの石造物が造立されている。次に特に注目すべきものについて紹介する。

（１）神猿

「神猿」とは狛犬の代わりに置かれたもので、富士信仰の神社や富士塚にみられる。富士山は庚申の年に出現したとされ、そのため猿は富士山のお使いとして古くから信仰されてきた。
３基の富士塚にはそれぞれ特徴のある神猿が祀られている。

①下新倉氷川八幡神社富士塚

「神猿像」(報告書番号 1-7)【第 9 図】

年代：不明
法量：高さ 47㎝　幅 18㎝　厚さ 20㎝
（右の神猿像のみ）
形状：彫刻石碑　石質：安山岩
丸彫像一対。損傷が激しく、左の神猿像は胸部より下のみ残存する。現在２体は同一の台石に固定されているが、もとは鳥居の左右に建てられていたと思われる。

②白子熊野神社富士塚

「神猿碑 (右)」(報告書番号 2-5)【10 図】

年代：不明
法量：高さ 85㎝　幅 90㎝　厚さ 12㎝
形状：板状　石質：安山岩

「神猿碑 (左)」(報告書番号 2-6)【37】～【39】

年代：不明
法量：高さ 86㎝　幅 115㎝　厚さ 14㎝
形状：板状　石質：安山岩
左右ともに線刻板石。右は阿形、左は吽形。互いに向き合い手を合わせる。参道入口の鳥居の左右に建てられ、富士山北口一合目馬返しを再現しているのだろう。

③浅久保浅間神社富士塚

「神猿碑 (右)」(報告書番号 3-44)【第 12 図】

年代：不明
法量：高さ 81㎝　幅 67㎝　厚さ 10㎝
形状：板状　石質：安山岩

「神猿碑 (左)」(報告書番号 3-45)【第 13 図】

年代：不明
法量：高さ 69㎝　幅 56㎝　厚さ 11㎝
形状：板状　石質：安山岩
左右ともに線刻板石。鳥居をくぐり石灯籠側に横並びに建てられる。右は阿形、左は吽形。互いに向き合い手を合わせる。右の神猿像には「上赤匚」、左の神猿には「練匚」「赤匚」の文字が確認され、「上赤塚」「練馬」「赤塚」の地名が刻まれていると思われ、これらの地域の富士講との関わりが予想される。

（２）浅久保浅間神社富士塚「行者座像」(報告書番号 3-17)【第 14 図】

年代：元禄十一戊寅天 (1698) 八月十五日
法量：高さ 69㎝　幅 56㎝　厚さ 30㎝
形状：石像　石質：安山岩
「元禄十一戊寅天 (1698) 八月十五日」銘の台座に乗る行者座像。瓔珞（首飾りや胸飾り）の痕と思われる穴が正面・裏面にみられる。また行者の持ち物である檜扇の痕跡が左袂に確認される。
胸には「長」の文字が刻まれ、修験道の行者

であり富士講の開祖とされた「長谷川角行」の座像の可能性がある。長谷川角行（天文十年(1541)～正保三年(1646)）の五十回忌供養のために建てられたものと推察される。

（3）浅久保浅間神社富士塚「九神碑」(報告書番号 3-23)【第 15・16 図】

年代：明治七甲戌歳 (1874) 六月廿二日

法量：高さ 113㎝　幅 113㎝　厚さ 14㎝

形状：板状　石質：安山岩

上部を尖がらせ、富士山を模る大型の石造物。中央には、建築前に行われる手斧初の儀式の神である天思兼命 (アメノオモイカネノミコト)・手置帆負命 (タオキホオイノミコト)・彦狭知命 (ヒコサシリノミコト)、聖徳皇太子の線刻が施される。

また、木の神である久久能智神 (ククノチカミ)、火の神である火産霊神 (ホムスビノカミ)・土の神である埴山毘売神 (ハニヤマヒメノカミ)、金の神である金山毘古神 (カナヤマヒコノカミ)、水の神である弥都波能売神 (ミツハノメノカミ) の名が刻まれる。

聖徳太子は仏像の造立や寺塔の建立など、建築の基礎を打ち立てたとされている。「諸職人中」という銘文からもこの碑は職人らによって造立されたものであり、職人が聖徳太子を祀る太子信仰を象徴した石造物である。

同様にこれらの神々を祀る石造物は志木市田子山富士でも確認されている (田子山富士石造物「90　諸神祭祀碑」 埼玉県志木市教育委員会　平成 8 年（1996）3 月 22 日 志木市の文化財第二十二集 調査報告書「田子山富士 (下)」P.92)。

5．終わりに

富士講は江戸時代中期から流行となり、江戸時代末期から明治時代以降富士登拝の流行とともに富士塚は次々と造られるようになった。富士山は明治 5 年（1872）まで女人禁制であった。富士山に行けない人のために手軽に登れる富士塚は盛んに築造されたのである。

富士塚は富士山を模して築造され、石造物によって富士山に存在する名称・施設なども再現されている。富士山登山の記念碑や、地元の富士講による石造物も多々建立された。また、築山碑や、完成を祝って他地域の富士講によって建立された石造物などからは、築造当時の様子や他地域の富士講との関係もうかがえる。

富士塚の山頂には奥宮をあらわす石祠を建てているが、下新倉氷川八幡神社富士塚のように「浅間大神（下新倉氷川八幡神社富士塚では「浅間太神」)」などと刻んだ石碑に置き換えている場合もある。

紀元前 301 年庚申（かのえさる）の年に富士山が姿を現したとする故事から、猿は神社のお使いとされている。神猿像や神猿碑は富士山や富士塚の登山口に置かれ、その神猿は合掌して富士山を拝んでいる。上新倉の富士講では富士塚を築いていないが、新倉氷川八幡神社境内の富士嶽浅間神社には富士講碑「富士嶽浅間神社大神」が建立され、碑の前には正面を向いた丸彫神猿が鎮座している。

富士塚の石造物には石工の名が刻まれていることも多い。また、浅久保浅間神社富士塚の九神碑は職人によって造立されたものであり、富士塚は多くの職人の手によって築かれたこともわかる。

このように、富士塚に建立された石造物やその碑文を調査することにより、築造の歴史、他地域の富士講との関係性、さらに地元富士講の特徴を明らかにすることができる。江戸時代末期から明治時代、さらに今日に至るまでの庶民の信仰や生活を知る手がかりのひとつになるだろう。

【参考文献】

伊藤堅吉 1963『富士講のおうた考』富士高原開発研究所

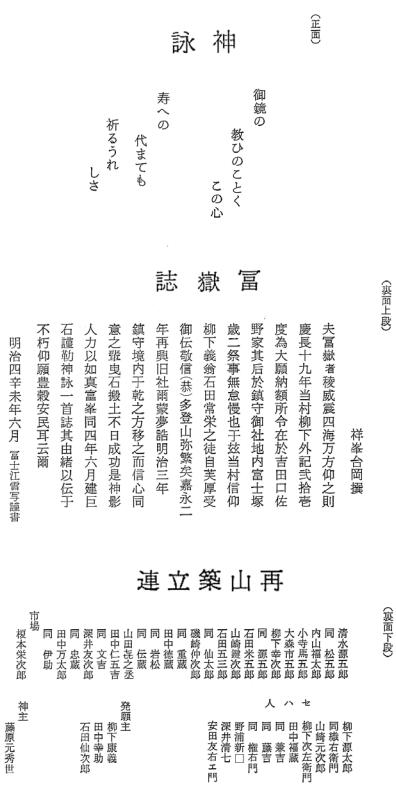
岩科小一郎　1983『富士講の歴史 江戸庶民の山岳信仰』名著出版

埼玉県志木市教育委員会 1996『志木市の文化財第二十二集 調査報告書「田子山富士 (上)(下)』埼

玉県志木市教育委員会
平野榮次 1987 民衆宗教史叢書第十六巻『富士浅間信仰』雄山閣出版
和光市 1983『和光市史 民俗編』和光市
和光市教育委員会 2023 和光市文化財調査報告書第１集『和光市の富士塚』和光市教育委員会

写真（正面）

拓本（正面）



（正面）

詠神

御鑑の
教ひのことく
この心

寿への
代までも

祈るうれ
しさ

冨嶽誌

（左面上段）

夫冨嶽者稜威震四海万方仰之則
慶長十九年当村柳下外記弐拾壱
度為大願納額所令在於吉田口佐
野家其后於鎮守御社地内富士塚
歳二祭事無怠慢也于茲当村信仰
御伝敬信（恭）多登山弥繁榮嘉永二
年再興旧社爾蒙夢詣明治三年
鎮守境内于乾之方移之而信心同
意之輩曳石搬土不日成功是神影
人力以如真富峯同四年六月建巨
石謹勒神詠一首誌其由緒以伝于
不朽仰願豊穀安民耳云爾

祥峯合岡撰

明治四辛未年六月　冨士江曾写謹書

連立築山再

（裏面下段）

セ

清水重五郎
同松五郎
同樣右衛門
内山喜太郎
小寺馬五郎
大森市五郎
柳下幸次郎
同　重蔵
同　岩松
同　伝蔵
山田左之丞
田中仁五吉
同　文吉
深井友次郎
同　忠蔵
田中万太郎
同　伊助
市場
榎本栄次郎

ハ

柳下覃太郎
同樣右衛門
松五郎
柳下次左衛門
田中福蔵
同　兼吉
同　藤吉
同　源五郎
同　権右門
石田米五郎
山崎長次郎
野浦新□
深井清七
石田五三郎
安田友右ヱ門
同　仙太郎
磯崎仲次郎

発願主
柳下康義
田中幸助
石田仙次郎

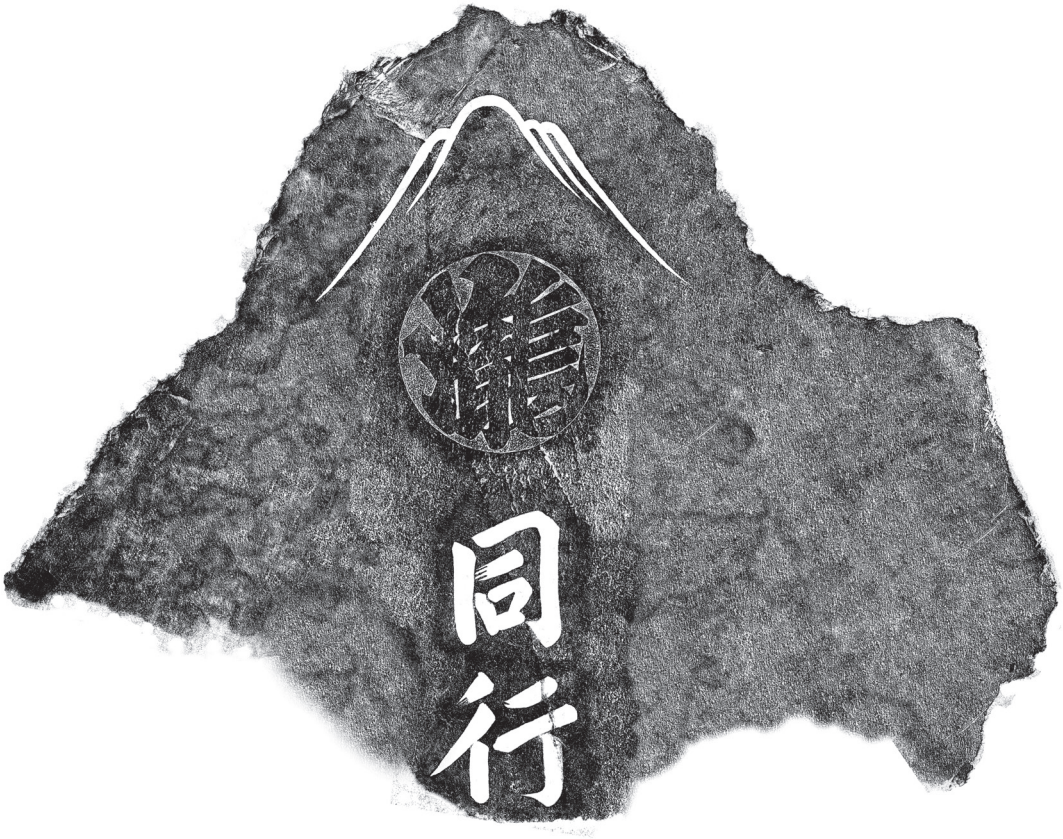
神主
藤原元秀世

解読文

拓本（裏面）

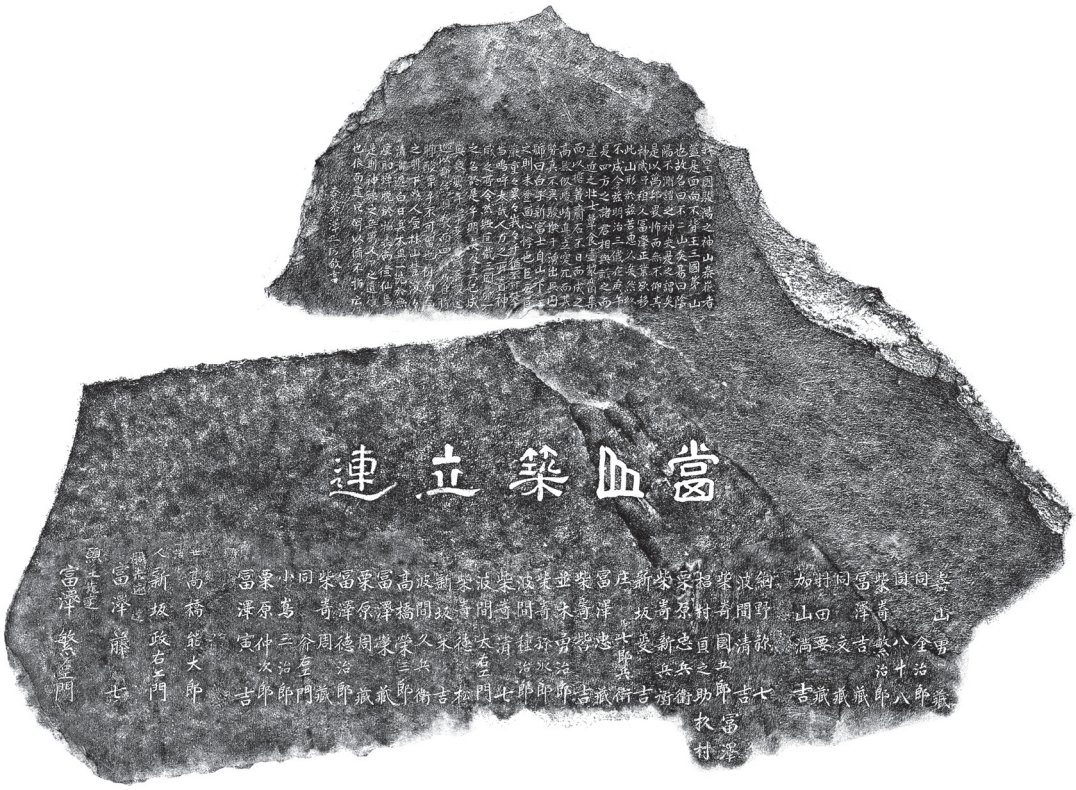
第１図　下新倉氷川八幡神社富士塚　奉納歌碑・築山碑（冨嶽誌）

写真（裏面）



拓本（表面）

第２図　白子熊野神社富士塚　築山碑（１）



拓本（裏面）

（正面）

同行

（裏面上段）

我皇国駿陽之神山泰嶽者
蓋是面向不背王三国第一山
也故名曰不二山矣易曰陰
陽不測謂之神天是之謂矣
是以万邦畏怖而無不仰其
神威予祖父富澤正業欲移
此山形於茲苦思久矣然終
不成今茲明治三歳在庚午
夏四方之諸君相與議之而
遠近之壮士簟食壺漿廣集
而以檐賁齎石不日而成之
高數仞峻真嶌立足兀而其
勢真不異駿嶽于湧出具因
号曰白子新富士自山下望
之則未登而心悸也巨石見
巖重々累々我々乎猶不所攀
為嗚呼文哉人力之所寄神
威之所令然歟恒侊三国第一
之名於是乎明矣及其已成
與衆場千攀碧嶽踐石稜逡
巡以到絶頂矣而四顧乃目眩
脚酸漂乎不可留也何而臨
之明下界人煙林山麓滾々
清滝遮白日真不異一洗於無
塵明蟬脱於物表而登仙琴
是則神徳之無窮人力之遺磧
也依而建片碑以備不朽云

春梟　澤　正彦敬書

連立築山当

（裏面下段）

嘉山勇蔵
同　金次郎
同　八十八
柴崎繁治郎
富澤吉蔵
同　文蔵
村田要蔵
加山満吉
富澤
細野弥七
浪間清吉　富澤
柴崎国五郎
梶村貞之助　枚村
栗原忠兵衛
柴崎新兵衛
新坂政吉
庄七郎兵衛
富澤忠蔵
柴崎皆吉
並木勇治郎
柴崎孫次郎
浪間種治郎
柴崎清七
浪間太右エ門
柴崎徳松
新坂米吉
波間久兵衛
高橋栄三郎
富澤栄蔵
栗原周蔵
富澤徳治郎
柴崎周蔵
同斧右エ門
小島三治郎
栗原仲次郎
富澤寅吉

世話人
高橋熊太郎
新坂政右エ門

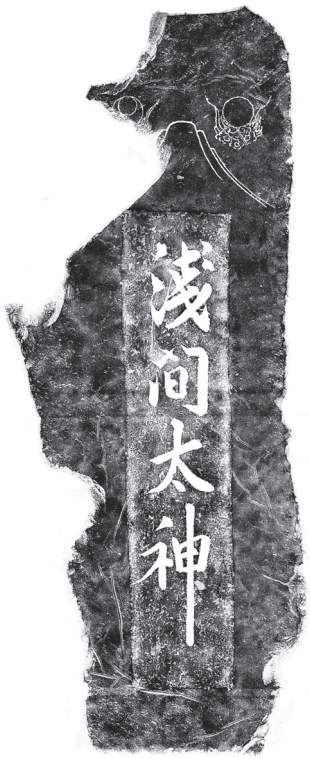
脇先達
富澤藤七

願主先達
富澤繁右エ門

解読文

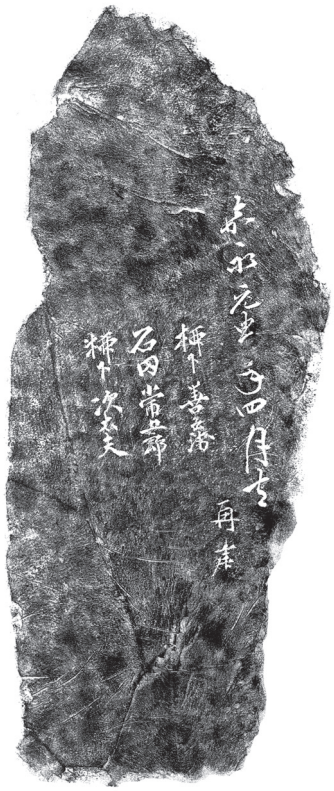
第３図　白子熊野神社富士塚　築山碑（２）

写真（表面）



拓本（表面）

拓本（台石正面）

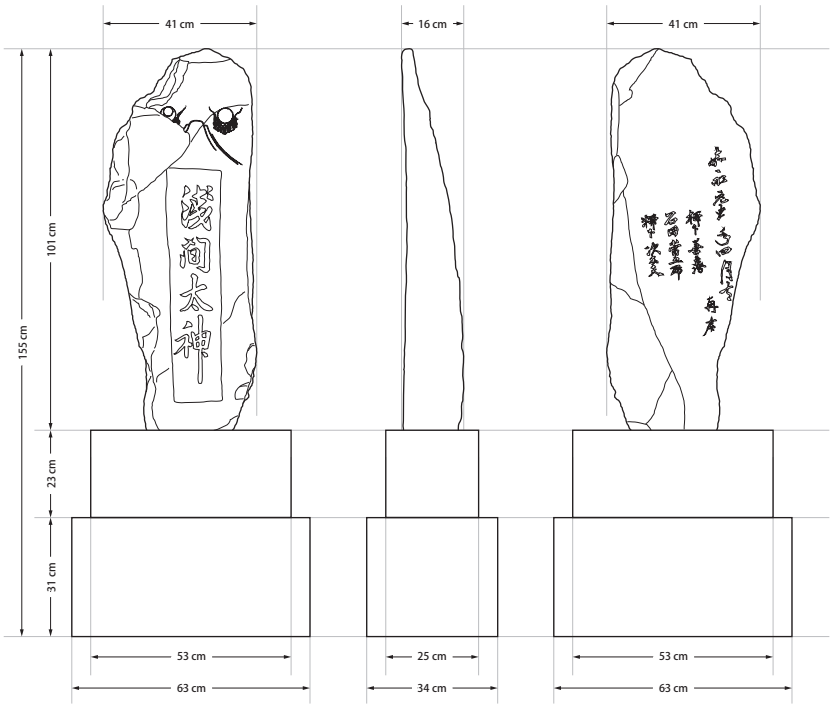


拓本（裏面）

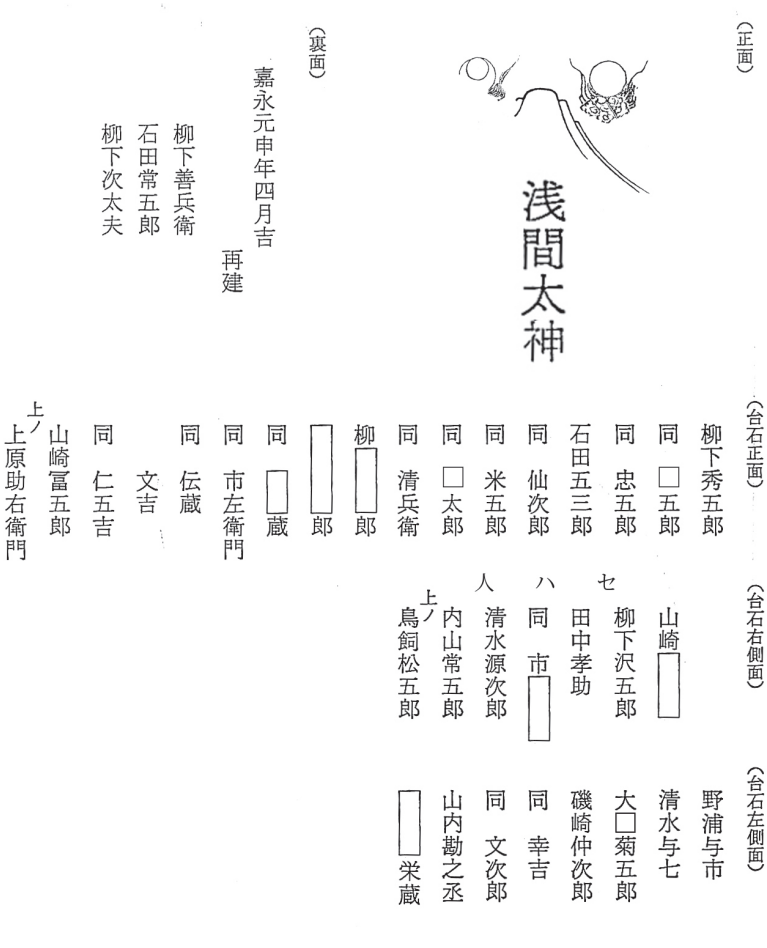
拓本（台石右側面）

拓本（台石左側面）

第４図　下新倉氷川八幡神社富士塚　神名碑（浅間太神）（１）



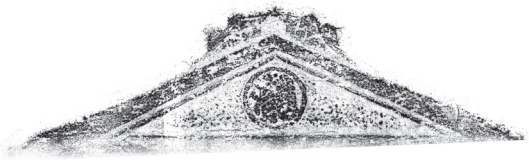
実測図



解読文

第５図　下新倉氷川八幡神社富士塚　神名碑（浅間太神）（２）

写真（正面）



拓本（上部屋根正面）

拓本（裏面）

（上部屋根正面）

瀧

（裏面）

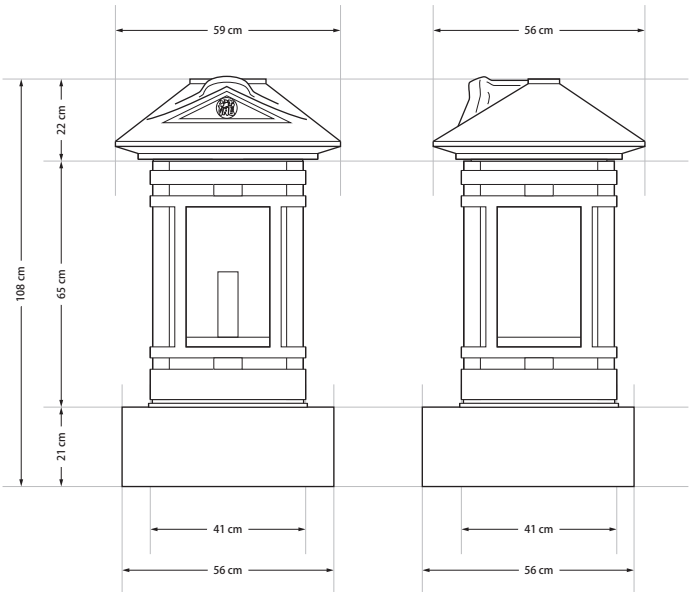
明治三庚午歳

六月吉日

願主

冨澤繁右ヱ門

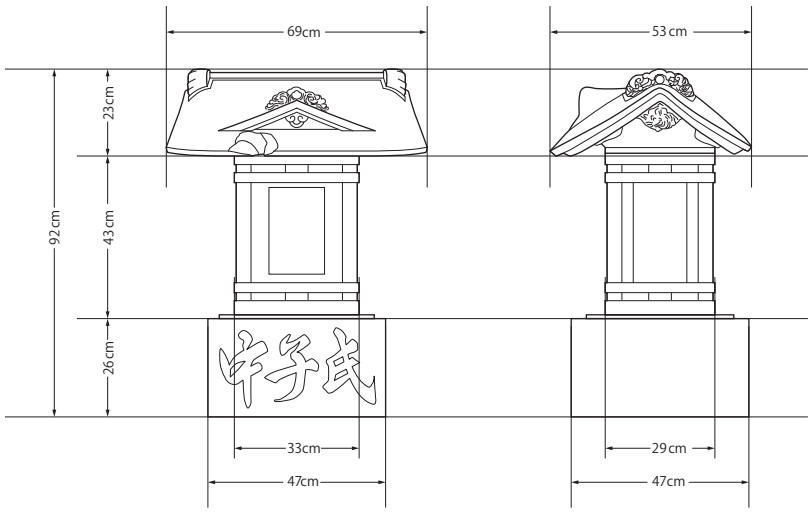
解読文



実測図

第６図　白子熊野神社富士塚　石祠

写真（正面）



実測図

第７図　浅久保浅間神社富士塚　石祠（１）

（左側面）神武天皇紀元二千五百三十
三年四月十五日再々建
（裏面）慶長十九甲寅天六月吉日
奉参詣廿一度諸願成就攸
武州新倉郷柳下外記
（右側面）再興願主柳下源太郎
元禄八乙亥天六月吉日　同　宗無
柳下次太夫
（台石正面）氏子中
（同右側面）吹上　柳下富太郎
吹上　柳下幸太郎
浅久保　柳下傳内
長島　柳下織右衛門
吹上　柳下源太郎
（同左側面）浅久保　柳下藤次郎
下里　柳下源五郎
吹上　柳下利八
浅久保　柳下陽眠

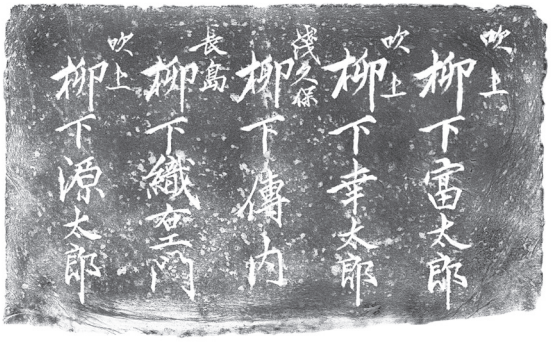
解読文

拓本（裏面）

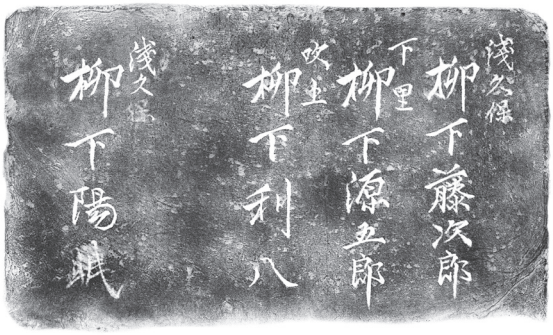
拓本（台石正面）

拓本（右側面）

拓本（左側面）



拓本（台石右側面）



拓本（台石左側面）

第８図　浅久保浅間神社　石祠（２）

写真（正面）

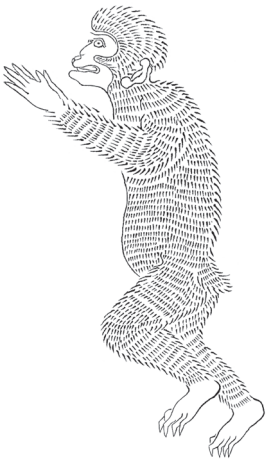
拓本（左・裏面）

拓本（右・裏面）

第９図　下新倉氷川八幡神社富士塚　神猿像

写真（正面）

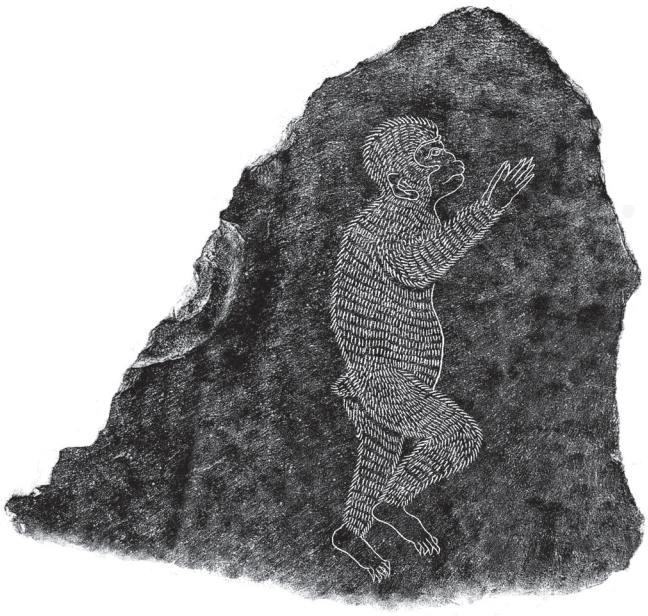
拓本（正面）



陽像

第 10 図　白子熊野神社富士塚　神猿碑（右）

写真（正面）

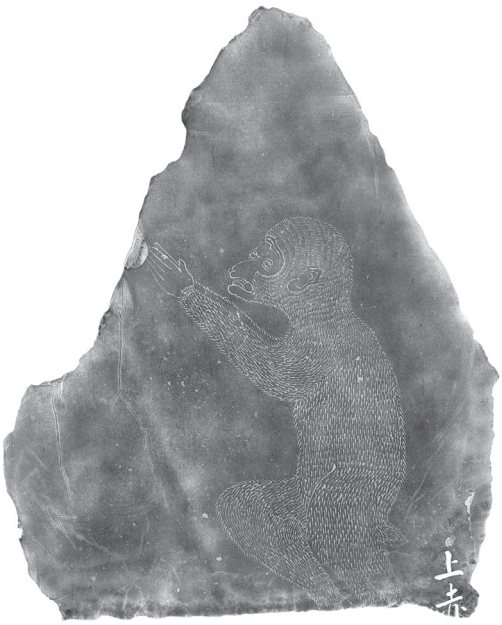


拓本（正面）

陽像

第 11 図　白子熊野神社富士塚　神猿碑（左）

写真（正面）

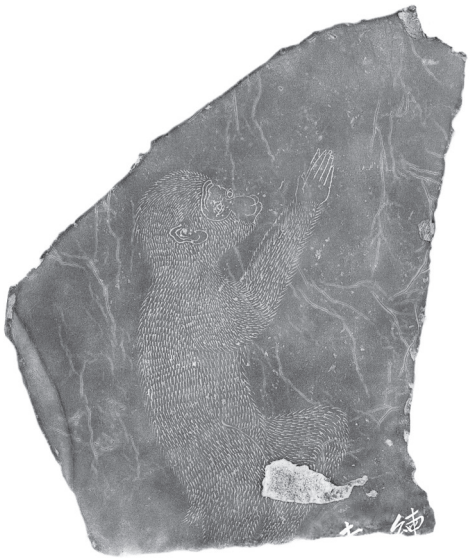


拓本（正面）

陽像

第 12 図　浅久保浅間神社富士塚　神猿碑（右）

写真（正面）



拓本（正面）

陽像

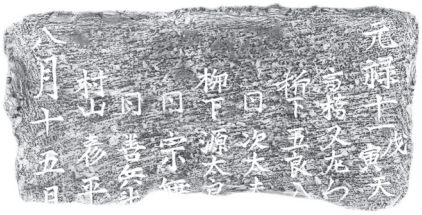
第 13 図　浅久保浅間神社富士塚　神猿碑（左）

写真（正面）

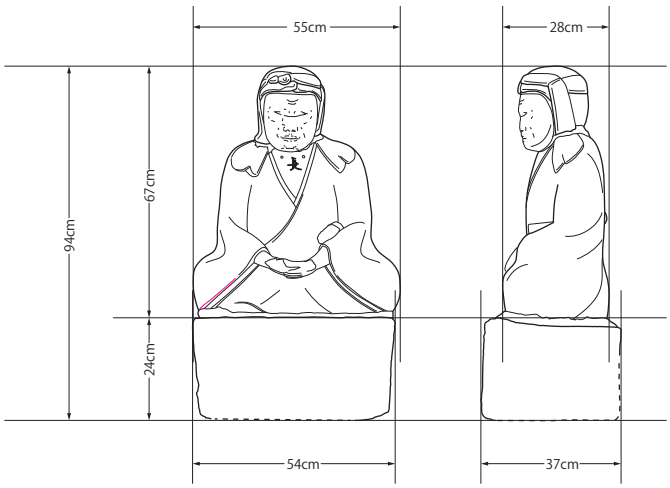
拓本（胸部）

（正面）（胸元に）長□
（台座正面）元禄十一戊寅天
高橋又左ヱ門
柳下五良八
同　次太夫
柳下源太良
同　宗無
同　善兵衛
村山彦平
八月十五日

解読文



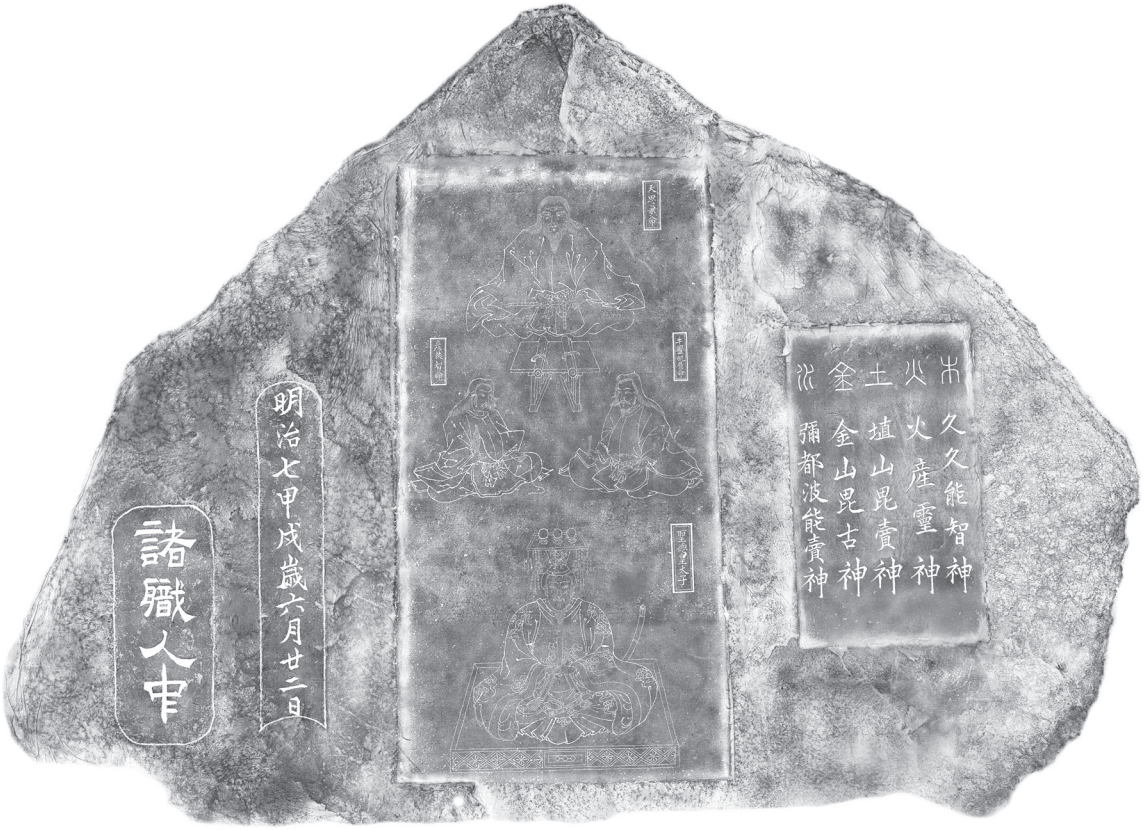
拓本（台座正面）



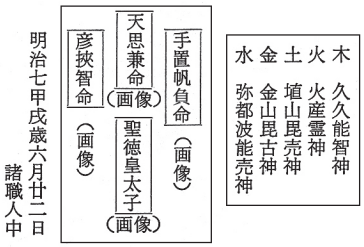
実測図

第 14 図　浅久保浅間神社富士塚　行者座像

写真（正面）

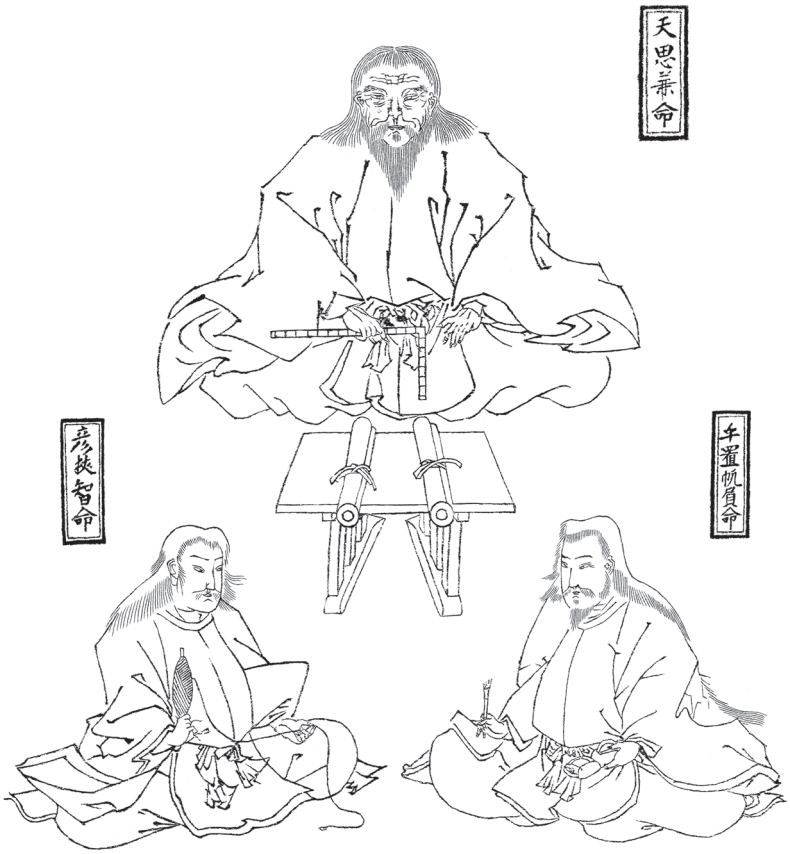


拓本（正面）



解読文

第 15 図　浅久保浅間神社富士塚　九神碑（1）



陽像

第 16 図　浅久保浅間神社富士塚　九神碑（2）

おおうち　かずお（和光市教育委員会）
たなか　ゆみ（和光市教育委員会）